

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.39(通巻 43号)

平成22年6月30日発行

【目次】

- こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【42】…………… 1
「散る桜 残る桜も 散る桜」という句について
- こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー— 【29】…………… 2
お仕事をお手伝いする2冊
- 市町村のみなさんからの発信 【28】…………… 3
「忘れられないレファレンス」旭川市立中央図書館 松野 晃久さん
- *Librarian's Box* (ししょぼこ) 【25】…………… 4
北海道雑誌新聞総合目録のはなし
- 課員のつばやき —日々の業務からの短信— 【26】…………… 5
参考調査課 随想
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介 (2010年4月~2010年6月分) …… 6
- News …… 8
 - 1 国立国会図書館、「キッズページ」を公開 (4/23)
 - 2 子ども書庫ツアーを開催 (5/5)
 - 3 帯広市図書館、健康・医療情報コーナーを開設 (5/20)
 - 4 図書館に続いて、「公民館海援隊」プロジェクトもスタート (5/21)
 - 5 道民カレッジ連携講座 初級編・応用編を連続開催 (6/3・6/17)
 - 6 国立情報学研究所 (NII)、Webcat Plus をリニューアル (6/22)
 - 7 帝国議会会議録の電子化が完了しました (6/29)
- 編集後記 …… 9



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【42】

「散る桜 残る桜も 散る桜」という句について

「散る桜 残る桜も 散る桜」。

この句の意味や作者についての問い合わせが来ました。「良寛」の辞世の句であるらしいとのことで、関連資料を調査することになりました。

まず手始めに「良寛」を調べてみると、「りょうかん【良寛】(1757/58-1831) 江戸時代中期-後期の僧、歌人、書家」等とあります。(『講談社日本人名大辞典』p. 2062 上田正昭 [ほか] 監修 講談社 2001.12 請求記号 : 281.03/K0)

蔵書検索してみると、当館に所蔵しているだけでも、良寛や詩歌についての資料は数多くあり、どれを見たらよいか、全てを調べるには時間がかかりそうです。

試しに「辞世の句」という方向からも調査を試みましたが、「うらを見せおもてを見せて散るもみじ」(『日本の生死観大全書』立松和平監修 四季社 2007.11 請求記号 : 281.04/NI) 等、良寛の辞世の句には諸説はあるようですが、これら辞世の句を集めた資料では「散る桜」を紹介しているものは見つかることができませんでした。

そこで困った時の「レファレンス協同データベース」ということで、レファレンス事例を検索してみたところ、過去にも類似のレファレンス事例があることが分かりました。

「レファレンス協同データベース」(<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>)より

- ・秋田県立図書館・・・『『散る桜残る桜も散る桜』は誰の言葉か』
- ・埼玉県立久喜図書館・・・『『散る桜 残る桜も 散る桜』は誰の句か』
- ・山梨県立図書館・・・『『散る桜残る桜も散る桜』は誰の句か知りたい』
- ・宮城県図書館・・・『『ちるさくら のこるさくらも ちるさくら』という歌について』



これらの事例によると、良寛の作であると紹介している資料も少しはありますが、「良寛作かどうかは分からない」とあるのが多く、作者についてははっきりしていないとのことです。

参考資料として使われたものの中で、当館にも所蔵している資料がありましたので、直接資料を参照して内容を確認しました。

『校注良寛全句集』(谷川敏朗著 春秋社 2000.2 請求記号 : 911.35/TA)によると句の意味は「桜の花びらがしきりに散っている。だが木の枝には、まだかなりの花がついている。しかもそれも、やがては散ってしまう。桜の花びらは、まことにはかないものだ」とあります。良寛の辞世の句であるという説について出典は「高木一夫氏著『沙門良寛』」からとなっていますが、「もしかすると、古句が良寛の逸話にまぎれこんだのかもしれない」と解説があります。

これらの資料の紹介と、協同データベースの事例の内容を併せて回答とすることにしました。

ちなみに、当館では今年5月16日(日)に、寄贈された桜の苗木80本を周りの庭に植樹しました。全道的にも今年の桜の開花時期は10日ほど遅かったようで、ちょうど桜の花が咲いている中での植樹作業となりました。数年後の春には、今よりも多くの桜の花を見ることができそうです。



お仕事をお手伝いする2冊

北海道は、我が国最大の食料生産地域にして、観光資源の宝庫。

製造、販売にかかわらず、一度は手にとっていただきたいビジネス支援関連の資料がたくさんありますが、本欄では、当館が最近受け入れたレファレンスブックのうち、お仕事のお手伝いに役立つことが期待できる2冊をご紹介します。

『品質保証ガイドブック 新版』日本品質管理学会編 日科技連出版社 2009.11
(当館請求記号：R509.66/HI)

本資料において、品質保証は、「顧客・社会のニーズを満たすことを確実にし、確認し、実証するために組織が行う体系的活動」と定義されています。要約すると、消費者が安心して満足して購入できるサービス(製品)の品質を保証するための、組織の体系的活動ということでしょうか。

品質統括部門の管理者・スタッフ、製品・サービスの提供に直接かかわる部門の管理者・技術者、品質保証全般について責任をもつ経営者・事業部長を対象読者としています。また、メーカーだけでなく、情報システム、土木・建築、小売業、サービス業、医療・福祉、運輸業、電気事業、教育、行政などの幅広い分野を扱い、品質保証の概論から具体的な品質保証の方法論や主要産業における品質保証活動の事例までを網羅しています。

編集は大項目主義で、「1部/品質保証の基本」「2部/プロセス別の品質保証」「3部/品質保証のための要素技術」「4部/主要産業における品質保証」の4部構成、欧文索引と和文索引があります。

本体価格が4万円と少々高いですが、ブランド構築の核となる品質保証についての概要がわかる資料です。<禁帯出資料です。>

『敬語使い方辞典』蒲谷宏編集代表 新日本法規出版 2009.2 (当館請求記号：R815.8/KE)

ビジネスにおけるコミュニケーションを円滑にするには、敬語を適切に扱えることも重要なポイントです。

ビジネス書やマナー本には「敬語の使い方」に関するものが多数ありますが、この辞典は通常のことばをどのように敬語にすればよいか、ということを示しているという点で優れています。

日常よく使う動詞・名詞約1,000語を見出し語として50音順に配列し、尊敬語、謙譲語、丁重語、謙譲+丁重語、美化語などによる言い換え例を示しています。例文を多数紹介するとともに、敬語の使い方の注意点を【memo.】として掲げてあります。平成19年文化庁文化審議会の「敬語の指針」に準拠した最新の内容です。

「言う」を例にしますと、尊敬語「おっしゃる」「仰せになる」ほか9例、尊敬語の名詞形として「ご意見」ほか2例、謙譲語「申し上げる」ほか8例、丁重語「申す」、謙譲+丁重語「お話いたす」、それぞれに例文が付され、【memo.】として「おっしゃられる」は「おっしゃる」+「…れる」の「二重敬語と記されています。

焦げ茶色のビニール装で目立ちにくいのが残念ですが、使い方何となく不安があることばの確認にとっても便利な辞典です。<禁帯出資料です。>

市町村のみなさんからの発信 [28]

「忘れられないレファレンス」

旭川市立中央図書館 松野 晃久 さん

何年も前の、ある冬の日のこと。静かな館内でフロアワークをしていると、小柄なおばあさんから遠慮がちに声がかかりました。友達からきれいな石をもらったが、何という石かわからない。調べたいので適当な本を探してもらえないだろうか、というお話でした。さっそく鉱物図鑑の書架にご案内し、離れた書架からも何冊か本を出して見ていただきました。おばあさんは一冊を選び、借りて帰られました。

数日後、吹雪の夕暮れでした。カウンターに来客と言われて行ってみると、先日のおばあさんでした。この前はありがとう。借りた本を返しに来た。あんたがいてちょうどよかった。そう言うとリュックから風呂敷包みを取り出し、中身を見せてくれました。掌からはみだすほどの大きさの、ずしりと重い、鮮やかな緑色の石でした。私に見せるために持ってきてくれたのだそうです。私は石の美しさ以上におばあさんの気持ちに打たれました。おばあさんは満足そうな笑顔を浮かべ、石を大事に包んでリュックにしまうと、吹雪のなかへゆっくりと帰って行きました。

－ なりふり構わぬレファレンス －

私は現在、資料調査室という6名からなるセクションにいます。ここには日々さまざまなレファレンスが持ち込まれます。ある日曜日のこと、一枚の絵を持ったお客様が来られました。これはどこかの会社から貰ったカレンダーの絵だが、気に入ったので切り離して部屋に飾っていた。誰の絵か知りたい、できれば他の作品も見てみたい、というお話でした。

茶摘みの女性が描かれているらしい画面以外に手がかりはありません。お客様にはいったんお帰りいただき、3人がかりで調査にとりかかりました。美術作品レファレンス事典などのレファレンスツールに当たりますが、成果はありません。こうなるとなりふり構ってられません。手分けしてインターネットの画像検索を始めました。何時間かが過ぎ、いい加減ぐったりしてきた頃、一人の首が突然しゃんと伸びました。「この絵、構図とタッチが似ている。」

この一言を手がかりに、画家が小磯良平氏らしいこと、T製薬のカレンダーが毎年氏の作品で制作されているという情報に至りました。一人がT製薬に電話で問い合わせたところ、即答でした。絵はやはり氏の「大原女」という作品だったのです。

お客様には後日、図書館で所蔵していた氏の画集をお見せし、喜んでいただけました。なりふり構わぬ(?)調査と、「似ている」と見抜いたスタッフの閃きが実を結んだ忘れられない一件となりました。

－ 不安を和らげるレファレンス －

こんな話を聞いたことがありますか? 大きな書店に入るとトイレに行きたくなる人がいる。それは膨大な量の本が人を不安にするからだ。図書館でも同じように不安を感じている人が多いのではないのでしょうか。

多くの本を前にしたお客様の不安を和らげ、必要な情報にたどり着くお手伝いをします。私はこの仕事が多くの人に必要とされていると感じています。

緑の石のおばあさんもきっと途方にくれていたのでしょう。だからこそ、私の何となくのサービスに最大限の感謝を示してくれたのでしょう。私も仕事をしながら途方にくれたとき、吹雪のなか、重い石を背負って来てくれたあのおばあさんの笑顔を思い出してどれだけ助けられたかわかりません。

Librarian's Box (ししょぼこ) 【25】

北海道雑誌新聞総合目録のはなし

1月に図書館システムを変更して5か月が経過しました。前号ではレファレンス記録をシステムで入力・管理するようにしたお話をしました。今号が出る頃には、その登録したレファレンス記録が1000件を超えることになりそうです。

さて今回は、システム変更で大きく変わった『北海道雑誌新聞総合目録』についてお話ししたいと思います。

この目録は当館及び道内市町村立図書館で購入している雑誌・新聞をまとめた目録で、保存年限やいつから所蔵しているかの情報が掲載されており、現在はホームページ上で見ることができます。

昨年までは五十音・アルファベットごとにページをつくり、これらのページを手作業でリンクさせていました。

作成当初から何とか手作業から脱却できないかと模索していましたが、今回のシステム変更を機に、検索システムを取り入れることができました。雑誌名や出版社での検索はもちろんですが、所蔵館を絞りこんで検索することもできるようになり、利用者には使いやすくなったと思います。しかし、実際に運用していく中でいろいろな問題が起きました。

「週刊朝日」がヒットしない!?

フリーワードや雑誌名に「週刊朝日」を入れてもヒットしないと指摘がありました。同様に月刊・季刊が含まれたものもヒットしません。

これは昨年までのタイトルの取り方が原因でした。昨年まではこの刊行頻度の表示は後ろに持ってくる形にしていた（「週刊朝日」→「朝日・週刊」等）。

このデータをそのまま新システムに組み込んだこともあり、「週刊△朝日」と分かちで入力すればヒットしましたが、「週刊朝日」と入力した場合はヒットしなかったのです。

この問題については、誌名標記のとおり検索できるようになりました。

収録タイトルを一覧で見たい

先に書きましたように、以前の目録は五十音・アルファベットごとにページをつかっていましたので、それを印刷することによって一覧でみることができました。しかし、検索システムに変更したことにより、目的のものを探することは便利になりましたが、一覧でみることはできなくなりました。

そこで現在、収録一覧については図書館ポータル「情報共有ファイル」－「お役立ちファイル集」のフォルダの中に収録一覧を掲載しました。この目録は掲載誌名、出版社、刊行頻度等を掲載しています。所蔵館については記載していないため、検索していただく必要があります。この一覧は半年に一度更新していく予定です。

今回の目録は検索することが可能になった点が大きな変更点ですが、もうひとつ変更点があります。それは、情報提供館が自館で情報を修正することができるようになったことです。

今までは、FAXやメール等で情報をいただいて当館で修正してきましたが、図書館ポータル上で修正が可能になりました。ぜひご活用ください。

なお、新規タイトルの登録や誌名変更・休刊などの情報は随時受けておりますので、ご一報くださいますようお願いいたします。

課員のつぶやき — 日々の業務からの短信—【26】

参考調査課 随想

4月から、初めて参考調査を担当することになりました。所蔵資料の熟知はもちろんのこと、情報収集や経験を重ねて、皆様から寄せられる質問に適確に答えられるよう努めていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、今回は印象深い事例ということで、私が最初に担当した調査を紹介します。

Q. 機関紙にのせる論文が手元にある。内容に「ヤギが〇頭、羊が〇匹」という表現がある。どちらかに統一した方がよいと思われるが、辞典等ではどう表されているのか知りたい。

A. 下記の4冊を紹介しました。

	資料名	著者	出版者	出版年	請求記号	該当項目
1	広辞苑 [2] た-ん	新村/出 編	岩波書店	2008.1	813.1/K0/2	「頭」、「匹」
2	日本語大辞典		講談社	1995.7	813.1/N I	「頭」、「匹」
3	数え方の辞典	飯田/朝子 著 町田/健 監修	小学館	2004.4	815.2/KA	「羊」 「山羊」→「動物」
4	絵でみるモノの数え方辞典	山川/正光 著	誠文堂新光社	2004.10	815.2/E	「どうぶつ」

資料の順番は、そのまま調査の過程と同じです。最初に、1と2という一般的な辞典類にあたり、次に3と4の数え方の辞典類にあたりました。

『広辞苑』では、「頭」には牛・馬・犬などの動物を数える語としての意味があり、「匹」には獣・鳥・魚・虫などを数えるとあります。『日本語大辞典』では巻末に「助数詞一覧」があり、「頭」は牛・馬・ゾウなど大きな動物、「匹」は獣・鳥・魚・虫など、小さな動物とあります。しかし、具体例にヤギと羊はありませんでした。

次に見方を変えて『数え方の辞典』をみると、羊の数え方は「匹」、「頭」とあり、数え方のポイントとして人間よりも大きな羊は「頭」で数え、羊の数が多く、数の把握が必要な場合は「頭」よりも「匹」の方が用いられるとあります。眠れない夜に、「羊が1匹、羊が2匹…」と数え、「羊が1頭、羊が2頭…」とはふつう数えないといったことまで書いてあります。さらに、「を見よ」参照で「動物」の項をみると、一般論として鳥類を除く動物一般は「匹」で数え、ただし、その中でも人間が抱きかかえられない大きさのものや、人間にとって希少価値の高いもの、実験動物や盲導犬のように人間の役に立つものは「頭」で数える傾向があるとありました。

『絵でみるモノの数え方辞典』では、参考として一頭、一匹、一群の用いられ方の説明があり、比較的大型の獣類で、群れをなしている場合、頭が出ているので数えやすいことから「一頭」が用いられ、小動物、鳥、魚などは「一匹」、本来は「疋(足)」が使われたが読み方が同じなので「匹」が用いられるようになったとありました。

以上のように諸説あり、どちらも使われる場合があると考えられ、論文の内容から判断するしかないのではという結論に至った事例でした。

普段なにげなく使っていたり、耳にしたりしていることばひとつとってみても実際に調べてみると実に奥が深いことがわかりますね。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2010年4月～2010年6月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載
(参考: 国立国会図書館NDL OPAC 雑誌記事索引。本号では一部3月発行の記事も掲載しています)

- 1 Q&A サイトと公共図書館レファレンスサービスの正答率比較/辻慶太; 榎原衣恵; 木川田朱美(他) 『図書館界』日本図書館研究会 61(6) [2010.3] p594～608
- 2 政治・法律・行政--議会官庁資料室のコンテンツ(特集 リサーチ・ナビ--調べものに役立つ Web サービス(その2)) /長崎洋 『参考書誌研究』国立国会図書館, 国立国会図書館主題情報部 72 [2010.3] p3～28
- 3 科学技術分野の「しらべるヒント」(特集 リサーチ・ナビ--調べものに役立つ Web サービス(その2)) /恩田裕之 『参考書誌研究』国立国会図書館, 国立国会図書館主題情報部 72 [2010.3] p29～39
- 4 経済・社会分野の「しらべるヒント」(特集 リサーチ・ナビ--調べものに役立つ Web サービス(その2)) /藤田実花 『参考書誌研究』国立国会図書館, 国立国会図書館主題情報部 72 [2010.3] p40～50
- 5 人文科学分野の「しらべるヒント」(特集 リサーチ・ナビ--調べものに役立つ Web サービス(その2)) /金井ゆき; 澤井優子 『参考書誌研究』国立国会図書館, 国立国会図書館主題情報部 72 [2010.3] p51～67
- 6 アジア諸国の情報をさがす(特集 リサーチ・ナビ--調べものに役立つ Web サービス(その2)) /渡部淳 『参考書誌研究』国立国会図書館, 国立国会図書館主題情報部 72 [2010.3] p68～81
- 7 図解 国立国会図書館のしごと 遠隔複写サービス 『国立国会図書館月報』国立国会図書館, 日本図書館協会 588 [2010.3] p16～19
- 8 図書館で学ぶ(第7回)ビジネス情報の調べ方 『国立国会図書館月報』国立国会図書館, 日本図書館協会 588 [2010.3] p30～34
- 9 いまどきデータベース 有用植物の病害診断・防除総合システム--Web 病害虫図鑑の横断検索 /菅原幸治 『日本農学図書館協議会誌』日本農学図書館協議会 157 [2010.3] p19～21
- 10 まずはこれを 統計が身近になるサイト&BOOKS10(特集 データが読めれば経済がわかる) 『週刊東洋経済』東洋経済新報社 6252 [2010.3.20] p90～91

- 1 1 図解 国立国会図書館のしごと『カレントアウェアネス』のしくみ 『国立国会図書館月報』国立国会図書館,日本図書館協会 589 [2010.4]p14~15
- 1 2 子どもたちの「調べる」をお手伝い--国立国会図書館キッズページ 『国立国会図書館月報』国立国会図書館,日本図書館協会) 589 [2010.4]p18~19
- 1 3 れふぁれんす三題噺(その 168) 埼玉県立久喜図書館の巻 あなたの「調べる」を応援します--情報の的確な提供を目指して /伊藤仁 図書館雑誌 日本図書館協会 104(4) [2010.4]p228~229
- 1 4 大人の楽しい調べもの(第 12 回)『インドの時代』を読んで、洗濯の歴史を知りたくなる /永江朗 『あうる』図書館の学校 94 [2010.4・5]p36~41
- 1 5 高田高史のレファレンスひろば(その 16)「今度、家族で海外旅行に行きます。海外ではスリやひったくりが多いと聞き、とても不安です。いろんな対策が出ている本はありますか」ほか /高田高史 『あうる』図書館の学校 94 [2010.4・5]p46~49
- 1 6 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 28)チャート日本文学(1)近代の文学作品を探す/大串夏身 『あうる』図書館の学校 94 [2010.4・5]p50~54
- 1 7 れふぁれんす三題噺(その 169)秋田県立図書館の巻 完売御礼! 秋田の食を売り込む--秋田県立図書館のビジネスレファレンス・サービス /嵯峨進 『図書館雑誌』日本図書館協会 104(5) [2010.5]p286~287
- 1 8 図書館海援隊--小郡市立図書館の試み(特集 時代の風を感じて踏み出そう! 図書館維新来る?) /田中のぞみ 『みんなの図書館』教育史料出版会,図書館問題研究会 397 [2010.5]p2~6
- 1 9 文部科学省の『図書館海援隊』の取組みと鳥取県立図書館の『働く気持ち応援コーナー』の設置まで(特集 時代の風を感じて踏み出そう! 図書館維新来る?) /小林隆志,高橋真太郎 『みんなの図書館』教育史料出版会,図書館問題研究会 397 [2010.5]p14~18
- 2 0 れふぁれんす三題噺(その 170) 福井県立若狭図書学習センターの巻 素材の吟味,的確な調理,最後は「ありあわせ」で! ?--レファレンスを料理にたとえるなら /渡辺力 『図書館雑誌』日本図書館協会 104(6) [2010.6] p378~379
- 2 1 健康情報サービスの実態および「がんに関する冊子」の利用アンケート調査結果報告 /JLA 健康情報委員会 『図書館雑誌』日本図書館協会 104(6) [2010.6]p386~389

NEWS

1 国立国会図書館、「キッズページ」を公開（4/23）

国立国会図書館は、子ども向けのホームページ「国立国会図書館キッズページ」を公開しました。「国際子ども図書館」のトップ画面から利用できます。資料検索、「子どもと本をつなぐ人のページ」に続く第3のメニューの今後の展開が楽しいな内容となっています。『国際子ども図書館』 <http://www.kodomo.go.jp/>

2 子ども書庫ツアーを開催（5/5）

読書週間中の子どもの日に合わせた「子ども向け図書館ツアー ぼくらは図書館たんけん隊」を今年も開催しました。当日は7組の親子20名が参加し、普段は入ることのできない広い書庫の見学などを通して図書館の役割を勉強しました。子どもたちは、生まれた日の新聞が大切に保管されていることに一様に驚いた様子でした。

3 帯広市図書館、健康・医療情報コーナーを開設（5/20）

2階の一般図書フロアに健康・医療情報コーナー「か・ら・だ♪ナビ」が開設されました。コーナーには、これまで別々の書棚にあった健康や医療の本をまとめて配置し、「がん」「くすり」などわかりやすいキーワードで探せるようにするなど利便性を高めています。『よむよむ☆タイムズ』 <http://www.lib-obihiro.jp/img/kouhou201006.pdf>

4 図書館に続いて、「公民館海援隊」プロジェクトもスタート（5/21）

「図書館海援隊」に続いて、全国の有志の公民館による地域の課題解決支援プロジェクト「公民館海援隊」がスタートしました。道内からは倶知安町公民館が参加しています。『「公民館海援隊」プロジェクトについて（公民館による課題解決支援）』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kaientai/1293990.htm

5 道民カレッジ連携講座 初級編・応用編を連続開催（6/3・6/17）

道立図書館では、図書館の利用講座「暮らしに役立つ図書館活用術」（道民カレッジ連携講座）を開催しました。今回は、2週間の間を空けて基礎編、応用編を連続開催し、受講者のスムーズな習得を目指す試みを行っています。

6 国立情報学研究所（NII）、Webcat Plus をリニューアル（6/22）

国立情報学研究所（NII）は情報検索サービス Webcat Plus をリニューアルして公開しました。今回は利用方法も動画で楽しく学ぶことができ、さらに検索結果を本の表紙で確認できたり、それらを自分の「書棚」にクリッピングすることもできるようになりました。『Webcat Plus』 <http://webcatplus.nii.ac.jp/>

7 帝国議会会議録の電子化が完了しました（6/29）

国立国会図書館では、議会開設120年にあたる本年、第1回（明治23年11月）以降の帝国議会全会期の速記録をインターネットで公開しました。戦後の「国会会議録検索システム」と通して利用できます。『議会開設120年 帝国議会会議録の電子化が完了しました』

http://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2010/_icsFiles/afieldfile/2010/06/29/pr20100629.pdf

編集後記

◆ 5月に児童書のブックフェアに行ってきました。普段、本屋に寄った時には児童向けの棚などを見るようにしていますが、まとめて見るならこういったブックフェアが一番。今回は参考図書を中心にみましたが、大人からの質問にも回答できそうな本も多々ありました。これだから、児童書は侮れない。(on)

◇ 4月に北方資料部より参考調査課に勤務となって、早2ヶ月が過ぎました。北方資料部とは勝手が違い、日々覚えていくことが新たにたくさんある今日この頃です。DO-REにもこの度初めて原稿を書きました。今回はご挨拶と事例の紹介の内容になりましたが、今後は少しでも皆様に有効な情報発信を目指していきたいです。(す)

◆ 「こんなのきました」で書いた桜の植樹と同じころ、子育て中の雌と思われるエゾリスを図書館の庭で見かけました。巣の中の仔リスたちのために、遠くから餌を探しに来ていたお母さんリスでしょうか。(T)



【写真】図書館の庭で撮影したエゾリス。わき腹にピンク色の乳頭が見える。

◇ 今号の“市町村のみなさんからの発信”は、旭川市立中央図書館の松野さんに寄稿していただきました。落語家はテレビではなく目の肥えた寄席のお客さんに鍛えられるものといいますが、レファレンスも一期一会で、その時々々の旬の素材(資料などの情報)をいかに見つけ出して利用者に提供できるかという真剣勝負です。わが身を振り返れば、“後の祭り”がいかに多かったことか。同時に、他のスタッフの一言でどれほど助けられたことか…。(へ)

◆ 4月から参考調査課勤務になりました。6月初めに当館で開催した全道図書館新任職員研修では、レファレンスの講義を受け持ち、レファレンスインタビューから情報探索へのルートについて説明したところです。しかし10年ぶりの参考調査課、最近図書館の外に出ていた時期もあり、実は私自身、情報探索ルートを見つけるまでおたおたする日々です。レファレンスツールは紙もwebも昔とは比べものにならないほど充実していますので、早く慣れてスピードアップを心がけていきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。(Y)

<館内異動>

佐藤良雄	奉仕部資料課へ
太刀野亜也乃	幕別町図書館へ
山本真紀	業務部市町村支援課へ
吉原和夏子	奉仕部奉仕課から
陶久郁子	北方資料部調査運用課から



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.39(通巻43号)

発行年月日 平成22年6月30日
編集 北海道立図書館参考調査課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
